

わたしと教科書の旅

兵庫県 神戸市立玉津第一小学校 6年
天羽 悠月

こんにちは。私は毎日あなたをのせて、学校へ通っています。ドキドキの入学式の日、ツヤツヤと輝くランドセルと一緒に歌いながら帰ったあの日から、そばにはいつもあなたがいました。

私はあなたに話したいことがあります。国語さん、大きなかぶとびっくりするおじいさん。初めて学んだ物語は私の絵本と同じでうれしくなりました。算数さん、世界が広がる小さな計算。計算のスピードが一番になりたくて、毎年コツコツとクリアしてきました。理科さん、自分の体重と変わらない体積のなぞ。本格的な実験は、一つ大人になった気がしました。社会さん、人類が生まれてから今まで先祖たちが創りあげた歴史。壮大な時間の流れが私の体にあることに心がトキメキました。ですが、「どうしてそんなに重いのですか。もう少し軽くてもいいのに…」と思いました。

「ゴトッ。ゴトゴトゴトッ。」

走るたびにゆれるランドセル。登下校を友達と遊ぶ私の背中で、かべにぶつかる痛さをこらえていませんか。共に過ごした六年間。私が勉強を楽しく学んでこれたのは、夢を宇宙よりも大きく広げてくれたあなたのおかげです。勉強がイヤになりあなたを見たくないと思った時も、いつしか手にとってページをめくっていました。また、先生におこられた時は、「あーあ。」と思ったのではないですか。それも笑える思い出になっています。

学校に大分なれてきた頃、母にあなたがたくさんいる店に連れて行ってもらったことがあります。私が学校で配布してもらった教科書以外に同じ学年のものが何冊も並んでいたりと、中学・高校と囲まれて、知らない世界にすいこまれていきました。

あと少しで、なんと私は中学生。おっちょこちょいの私だから、あなたはたよりなく思うかもしれません。そんな時は背中をそっと押して下さい。

「一歩足をふみ出せば、未来はそこだよ。」

というように。この先どんなことが待っているのか、胸をときめかせてみることはやる気のかけ橋。道徳で先生が教えてくれました。

ところで、未来の学校はどうなっているのでしょうかね。ランドセルはあるのかな。教室でゾロッとそろった頭が仲良く学び、先生とあなたという縁の下の力持ちが、教科ごとにつくり出す夢色のストーリー。もしタイムマシンに乗れたなら、共に愉快的な旅へ出ませんか。きっとあなたの思いは昔も今も未来へつながっているにちがいありません。そうしたらあなたはきっと、世界で初めて時空を旅した“教科書”になるでしょう。

その未来に向け、私はどこまでもチャレンジしていきます。これからもどうぞよろしくお願いします。空高く、はばたくために。